

Kodama Shingo
児玉 真伍さん
 ミカワアートセンターセンター長

学生時代の部活は剣道部。大学も総合大学に進みアートとは無縁の人生だったが、いつも心のどこかで「何かを表現したい」という気持ちとアーティストへの憧れがあった。2013年に行われた「あいちトリエンナーレ」で出会ったアーティストの影響を受けてMikawa Art Center（ミカワアートセンター）を設立。地元蒲郡でアートを身近に感じられる場所づくりやアートをきっかけに人と人がつながり合うための様々な活動に取り組んでいる。



蒲郡で輝くオモシロい人たちの
 ライフスタイルや想いに迫るインタビュー

がまごおりで
 オモシロい人
 見つけました

僕は「土の人」になってこの街を支えたい。
 「風の人」がいつでも帰って
 来られるように。



愛知県東三河地域に位置する蒲郡市。
 穏やかな海と山々に囲まれた小さなまちで、
 キラリと輝く「ちょっとオモシロい人」を
 ご紹介します。

Personalities in
 Gamagori
児玉 真伍さん

は
 じ
 ま
 り

●はじめはこの一言
 活動のきっかけは、学生時代に作品制作を手伝っていたアーティストからの一言。各地で作品制作の手伝いをしていましたが、芸術大学に行かなかった自分には表現活動ができないと思っていました。思い切って「僕もアーティストになりたかった」と伝えてみました。するとその方は「なっちゃえばいいじゃないか」と。簡単な言葉に聞こえるかもしれませんが、憧れの方に言っていただいたことで「自分もなっているんだ」と思えました。

●蒲郡市が大好きだから
 蒲郡市にMACを置いた理由は、生まれ育った場所なのにアートに触れて感じる場所が少なかったから。固定概念にとらわれず自由に表現できる場所を創りたいと思いました。僕は生まれ育った蒲郡市が大好きです。だから蒲郡を出た人や自分の行き場所を探す「風の人」と呼ばれる人が、いつでも帰って来られる環境を作りたい。僕は「土の人」として、これからも蒲郡で活動しようと思っています。

●拠点を置かず MAC を設立
 「MAC」の由来は山口県の「Maemachi Art Center（マエマチアートセンター）」。「山口市の文化施設で働くスタッフやアーティストが共同生活している場所で、「MとAとCが頭文字につくアートセンターを全国に」という取り組みに賛同しました。2016年2月、日常に新たな「感動」や「発見」、「面白さ」が表現できる場所として、「Mikawa Art Center」（通称:MAC）を立ち上げました。



「楽しそう」から始まり、
 「楽しませたい」に行き着いた。



蒲郡で輝くオモシロい人たちの
 ライフスタイルや想いに迫るインタビュー

がまごおりで
 オモシロい人
 見つけました

愛知県東三河地域に位置する蒲郡市。
 穏やかな海と山々に囲まれた小さなまちで、
 キラリと輝く「ちょっとオモシロい人」を
 ご紹介します。

Personalities in
 Gamagori
鈴木 義教さん



蒲郡って
 どんなまち?

蒲郡市は愛知県にあり、本州のほぼ中心に位置する人口約8万人のまちです。2つの半島に囲まれ南は波穏やかな三河湾、北三方は緑の山々に囲まれた自然豊かな土地で、四季折々の美しい景色と食の恵みを楽しむことができます。首都圏や名古屋からのアクセスもよく、自然と利便性が程よく調和した地方都市です。



は
 じ
 ま
 り

Akahi = 思いやり Lokahi = 調和 Olu'olu = 喜び
 Ha'a Ha'a = 謙虚 Ahonui = 忍耐
「アロハ(ALOHA)」の心でゲストハウスを始めました

●きっかけはハワイのゲストハウスでした
 きっかけはハワイで訪れたゲストハウス。そこは大きなプールが付いており、家族や団体でシェアできるようなところでした。僕はこのとき物価が高いハワイの高級ゲストハウスでもシェアすれば一日1万円ぐらいで泊まれることに気づきます。思い立ったらすぐ行動。日本に戻ったときには「さて、どこでゲストハウスをはじめようか？」と考えていました。もともと、じっとしているのは苦手だったんです。

●他にはない最高のロケーション
 「いい場所はないかな?」と探していたとき、この情報が入ってきました。サーフィンや仕事の帰りに通っていた道だったので、ロケーションの良さは知っています。実際に空き家からの景色を見て、ここにしよう決めました。毎年、夏になるとラグーナテンボスの花火が1階からも2階からも見られます。他にはない最高のロケーションに巡り逢えました。



Hawaiian Guesthouse

by Yoshinori Suzuki



目指したのは、
潮風を感じながら
のんびり過ごせる空間



いま

●「やるしかない」の気持ちでスタート

「ゲストハウスをはじめよう」と心に決めましたが、一から独自で判断していくしかありません。不動産業と二足のわらじを履いてのスタートです。改装前、このゲストハウスは60年近く経っていた空き家。ポロポロで改装費用は考えられないぐらいの金額になり、民泊事業としての融資の前例が無く、融資を受けられないというハードルもありました。それでも仲間の協力のおかげで何とか最低コストに抑えて半年で完成させました。

●頼もしい知り合い

自分ではどうにもならない専門分野があります。「さて、どうするか」と悩んでいましたが、幸いにも知り合いには行政書士の方がいたり大工がいたり。民泊専門の管理会社などの手配もできました。このような人脈づくりは運営していくのに欠かせません。頼もしい知り合いが周りにいて、オーナーとしての「これから」が考えられます。

●ゲストハウスで生まれ変わる古い物たち

家に古い物を保管できる場所があり、長年好きで集めてきたものをゲストハウスに持ってくることができました。あと関わりがある方が手作りの作品をお客様に見てもらえるなら飾って欲しいと装飾品をプレゼントしていただいたり。本来なら捨ててしまう古い物たちも、ゲストハウスの良さになるような新しい物へと生まれ変わっています。



●ライバルと高め合うこと

今後は、ゲストハウスを開くライバルが増えれば嬉しい。ライバルがいれば「もっと頑張ろう」と思える。それぞれが競い合って高めていけるような関係が望ましいですね。どんどんと上を目指していけるようなライバルなら最高です。昨日の敵は今日の友というように、のちに分かちあえる仲間になるかもしれない。僕はこの辺りがもっと活気づけばいいなと思っています。「この場所をよくしたい」という想いが、「この周りもよくしたい」に変わっていくことは、蒲郡市としての活気にもつながるのではないのでしょうか。

●カッコいい蒲郡市を目指しませんか？

蒲郡市の空き家をリノベーションしたのは、一つのモデルになればいいなと思ったからです。「ポロポロの空き家でもこんなに素敵に生まれ変わる」と伝えたかった。現在、ゲストハウスは完成形。あとは周辺環境を盛り上げていきたいですね。蒲郡市民が力を合わせて景観を大切に作る取り組みをはじめれば、もっと素敵な場所になるんじゃないかな。そんなことが率先してできる「カッコいいまち」になるといい。

●人生は一度きり

人生は一度きりなのですから、「やる」と決めたからには真剣に一步を踏み出してみてください。「ビジネスとして回していくにはどうすればいいのか？」ということも考えなければなりません。今まで関わった人が助けとなってくれることもあるでしょう。ゲストハウスを始めるなら、維持や管理は大変ですよ。必ずしも儲かるものではないので、短期的にはではなく、長い目でそれができるかが大切だと思います。ゲストハウスをはじめなくても、一度遊びに来てみませんか？のんびりとできるこの場所でお待ちしております。



これから



Mikawa Art Center

by Shingo Kodama



蒲郡にアートのある
新しい風を吹かせます



1階はMAC、2階は児玉さんの住居。
パブリックとプライベートがゆるやかに繋がるこの建物は元和菓子屋。
玄関横の「餅」の文字はその名残だ。

いま

●さまざまな実験ができる拠点を作ろう

MACを立ち上げてすぐの2016年夏に、あいちトリエンナーレに参加しました。バスツアーを企画したりMAPを創ったりしたのですが、蒲郡市に住んでいる方の参加はわずか。まだまだこれからだと思いました。それで、少しずつでも実験的な試みをしていきたいと思い、2019年に故郷である蒲郡市にMACとしての拠点を置きました。プライベートとパブリックが混ざり合う緩やかな場所を意識しました。

●ひとりでは無理だった

ある日突然舞い込んできた「地域のイベントでお化け屋敷を作ってほしい」という依頼。これには「さて、どうすればいいんだ？」と頭を抱えました。このような状態の中で助けてくれたのは大学時代の仲間。僕の未熟な部分をサポートしてくれました。子どもの扱いに慣れている人がいたり技術面でサポートしてくれる人がいたり、まさに適材適所。このプロジェクトを皆で諦めずにやり遂げられた達成感は大きかったです。

●どんな人でも輝ける場所へ

どんな人でも輝ける場所を作ることが使命だと思っています。このように思えたのは名古屋で参加したプロジェクト型の作品で目の当たりにした市民の協働から。この作品は市民と作り上げるもので、それぞれの出身や年齢関係なく、集まった皆が個性を活かしてキラキラと輝いていました。このように多様性を認めてアートとして表現し、それに関わった人が幸せになれるような場所を作りたいと思いました。



プロジェクトに向けて「何が出来る?」「どうやったら出来る?」と話し合うこともあれば、ただ鍋を囲んで談笑する日も。

●蒲郡市に住んでいる人にお勧めしたい本

大橋裕之先生の『遠浅の部屋』。親に「プロボクサーになる」と嘘をついて蒲郡市の実家を飛び出し、こっそりと漫画家を目指していた先生の18～19歳当時を描いた自伝漫画。随所に出てくる先生の蒲郡愛が面白いです。

●蒲郡市の良さを全国へ

まずは蒲郡市民に興味を持ってもらえる仕組みづくりから。展覧会などを開いて、固定概念にとらわれずチャレンジし続けます。蒲郡市は日当たりも良く海もあり山もある。とっても環境がいいんです。このような蒲郡市の良さを全国にも発信していきたい。

●ワクワクする仕掛けを作りたい

蒲郡市にMACを置いてから少しずつ人の輪は広がっています。今まで関わってきた方が気軽に足を運んでくれるようになったのは嬉しい限りです。これからもワクワクできる仕掛け作りをしていきたい。蒲郡駅前の地下街とか楽しそうでしょ？

●「やる」と決めたらきっかけは身近にあるかも

「やる」と決めたらまずは身近なところから話せる人を見つけてみてください。それは僕でも構いません。僕も大学時代から地道な活動を続けたことで、たくさん人に巡り会えました。成功するまでやり続ければ、それは失敗ではありません。

●一緒に励まし合える仲間募集

お互いに「やりたいね」や「いっしょにやろうよ」が言えるような仲間募集集中。一人で考えるより二人、二人で考えるより三人の方が大きな力になります。相互に助け合い、励まし合えるような仲間が増えれば心強いです。面白いものを一緒に創りましょう。

これから

